

総務委員会 県内調査活動状況

1 調査日 令和4年10月24日（月）

2 出席委員（8名）

委員長 卯月 政人

副委員長 桐原 正仁

委員 鷹野 一雄 古屋 雅夫 笠井 辰生 宮本 秀憲

河西 敏郎 小越 智子

3 欠席委員 桜本 広樹

4 調査先及び調査内容

（1）【消防防災航空隊】

○調査内容（主な質疑）

問) 救助者のうち県内と県外の割合を教えてください。

答) 6割程度が県外になる。

問) 訓練を含めて飛行場外離着陸場と緊急離着陸場で離着陸したことがあるか。

答) 飛行場外離着陸場については、全て離着陸している。緊急離着陸場は緊急時にのみ使用できるため、全てではない。

問) 緊急離着陸場の環境が変わっているところもあると思う。訓練で離着陸していないと、緊急時に体制がとれなくなることはないか。

答) 飛行場外離着陸場及び緊急離着陸場ともに、毎年、地上から状況の確認している。

問) 緊急離着陸場については、地上から状況を確認することも必要だが、緊急だからこそ使う必要がある場所なので、何方か決めて緊急離着陸場で訓練をしたほうがよいと思った

問) 県警察のヘリやドクターヘリとの間で着陸場の共有はあるか。

答) 県警察のヘリポートについては利用している。ドクターヘリ離着陸場については、

できるだけ共有していきたいが、ドクターヘリの機体が小さいため全てが利用できるわけではない。

問) 48箇所は国への許可を取っているとのことだが、県警察も含め全て許可が必要なのか。

答) 飛行場外離着陸場は、それぞれの機体ごとに申請している。県警察は県警察で行っている。

問) 要請を受けたが、天候の問題などによって、受けることができなかったことはあるのか。またそれはどのような理由か。

答) 天候で飛べないことが一番多い。そのほか、毎年、耐空検査が2カ月程度あるため、その間は使用できない。

問) 昨今、米軍の低空飛行訓練や自衛隊のことがあるが、ニアミスはあったのか。今後そのようなことがあった場合、どのように回避するのか。

答) 今のところそういったことはない。

機内から監視ができる状況になっているので、ニアミスがないように対応を取っていく。



※説明、質疑の後、緊急運行等の説明及び消防防災ヘリ「あかふじ」の視察を行った。

(2)【意見交換会】

①出席者 山梨県立大学生

②内容 「若者の県内定着に向けた課題と方策について」

○主な意見

委員) 若者の県内定着に向けた課題と方策について、ご自身の進学時や就職活動時の経験を踏まえて意見を伺いたい。

出席者) 若者を少しでも山梨に残すためには、山梨に残っている人たちと接することが必要だと思う。

山梨には何かをなそうとしている人や若者を必要としている人がたくさんいることをフィールドワークや就職活動などを通じて知った。話を聞いたり、一緒にやってみて心に残った経験が若者の意識を山梨に向けると思う。

ただ、残りたいと思う若者をふやすためには多くの時間が必要だと思う。また、みんなが山梨に残るわけではないが、それでも山梨で夢を追いかけようとしている人や若者を必要としている人たちと接した経験は山梨に残るきっかけになると思う。

多くの若者に山梨に残って何かをしている人たちと接する機会があればいいなと大学生活を通して思った。

出席者) 私は、大学への進学をきっかけに山梨県に来たので、いわゆる地域に定着しなかった側の若者としての話をしたい。

大学に入ってから、山梨県の観光政策に携わる機会が何度かあった。その機会を通じて、実際に自分の手で、山梨の観光を動かすうちに、私が感じたのは、地元にいる頃に、同じことをしていたら、地元から出なかったのではないかと思う。

どうしても自分の意見を話すのは、高校生にはまだ荷が重く、自分なんか意見が言っても何も動かせないというプレッシャーが絶対あると思う。私も大学生にならなければ、県議会議員と話をしてほしいと思えなかった。

私が今一番思うことは、とにかく早い段階から皆さんもこれからの地域を動かしていく一員です、皆さんの意見もこれからの山梨県全体を動かしていく力がありますということをお話だけではなく、自分の耳とか肌を持って感じられるような環境をつくってほしい。例えば、高校だけではなく、中学校にも観光政策でこういう提案ありませんかといった声がけをしたりして、とにかく早い段階から県の一員であるという自覚を持たせられるような機会を設けることが必要ではないかと感じている。

出席者) 私は県内出身で、東京に出て、また戻って来たが、いろいろある大学を選ぶ中で県内の大学を選んだ一つの理由として、学校から高校までの地域に密着した活動、教育が影響しているのではないかと思っている。

小学生から高校生までは富士吉田市内や富士北麓地域を中心としたまちづくり活動を学校を通して参加しており、その経験から、県内に戻って、市民としての山梨県ではなく、専門的なものを学びたいと思い県内の山梨県立大学に編入をした。

東京にいた2年間はコロナにより、地域に帰省することがなかったが、考える時間は非常に多くあったので、子供の頃から地域に密着した活動を行うことが必要ではないかと思っている。

出席者) 私が就職活動をして思ったことは、若者が県外に出る理由として、最初に会社を探すとき、自分たちが名前をよく聞くB to Cの企業が県外に多くあり、特に隣の東京に最初、目をつけるためだと思っている。

山梨県にも今、半導体の技術や医療系で名前を大きく上げている企業はあると思うが、結局その企業はB to Bであって、私たち学生が日常的に聞く企業の名前はないことが、県外に出てしまう大きな理由だと思う。

私としては、小さいときから、例えば、県内のB to Bの企業で、貿易などで名を上げている企業との接点、県内の企業はこういうことをしているという、私たちとの接点を早い段階から持つことが重要だと思う。山梨にもこんな企業があるということを学生の意識の中において就職活動していくと、県外に行くのではなく、県内の会社もいいなと思い、残ってみようかという意識に変わる学生もいると思う。

少しでもそういう学生を残すためにも早い段階から、県内のB to Bの企業で、成長している企業などを、自分たちの意識の中に入れることが重要だと思う。

出席者) 半年しか住んでいない人の意見として聞いてほしい。正直、今のところ山梨県に全く魅力は感じていない。これから住みたいかと言われるとそうでもないのが本心。

いざ就職となると、東京に戻るか、県外に行くと思う。住みづらいと思う要因として、まちの構造が本当に不便だと思う。東京に住んでいるときよりもすごく感じてしまう。それこそ交通や駅前。買い物をするには車がないと駄目なところが不便だと感じている。

就職についても、山梨県内での就活やインターンについて調べたが、あまり魅力的な企業がないと思う。ネームバリューの問題もあると思うが、そこに勤めても、そこから先が特に何もないと感じる企業が多いと思う。若者が残るには、仕事がないと残れないと思うので、県外からいい会社を呼んだり、つくったりというのが大事だと感じた。

結局、若者に魅力のある県にするのは、仕事とそういう教育が大事だと思う。

出席者) 高校から大学に進学するとき、クラスの3分の2ぐらいが県外、特に東京に出て行ってしまったが、その中で私が山梨県に残っている理由は、小学校2年生か

らヴァンフォーレ甲府を応援しているから。2週間に1度、小瀬スポーツ公園に行けば、1万人近い観客が一緒になってチームを応援するという経験ができることを初めて知ったときに、こんなに熱い体験をできる場所が山梨県にあるのかと思い、本当に魅了されて山梨県に残っている。

小さい頃から山梨県のことを好きになるきっかけというのは、会社のこともあるかもしれないが、スポーツの力はすごく大きいのではないかと思う。

山梨県の老若男女が一堂に会して熱くなれる場所というのは、私が知っている限りヴァンフォーレ甲府しかないかと思っている。そういった機会がもっとふえることで、若者が山梨県をよりよくしようと思えるきっかけになると考えている。

出席者) 大学に進学するとき、私は県立大学に進学を決めたが、クラスメートのほとんどは東京など県外に出ていってしまった。その理由を聞くと、山梨県内の大学にはやりがいや自分のやりたいことがないという人やとりあえず山梨県から出たいという人が多かった。

このことについて、私は、高校生や大学生に、今後山梨県でやりたいこと、できることを教える機会が少ないのではないかと思っている。大学や就職先を選ぶうえで、自分が山梨県内で何ができるかを知らなければ、残りたいと思うことはないのではないかなと思うので、私が必要だと思うのは、若い人が山梨県で自分の夢をかなえられるという環境や実感を持てる機会が必要だと思った。

出席者) 自分は仕事と生活の面で思ったこと言いたい。まず、仕事の面について、大学への進学を機に県外に出る人が多いが、それまでに県の魅力とかどんな仕事があるのかを知る機会がないことが課題だと思う。

その上で、早いうちからどのような仕事があるのかを知る機会がふえるとういのではないか。

生活の面では、就職のために移る人が多いと思うが、過ごしやすいという点からでも、移る人がふえるのではないかと思っている。

例えば、出身の福井県は、幸福度日本一と言われ、子育てのしやすさや車での移動がしやすいといったことがある。また、東京と福井と比べたときに将来、老後に2,000万円ぐらいの差が出ることから、地元に移ることによって生活の面でも自分の人生の質を高めるというメリットを県とか市が広報できればいいのではないかと思っている。

出席者) 山梨に来てから半年経過して、課題としては、この県の地元の方々は、地元への愛や誇りが弱いことが課題と思っている。誇りや愛がないから要するに出ていってしまう。知らないから何もないと思ってしまうのではないかと思っている。これを解決するため、私たち大学生が、小中学生などの子供に、自然に触れ、また歴史を知るチャンスを提供したいと思っている。

大学生の視点から、歴史や自然を見ることで、得るものも違うと思うし、新た

な意見などが出てきて、それが愛だったり、誇りだったりにつながると思っている。興味をもって、そして愛をもつことで、この県にいたいという気持ちが生まれるのではないかと思っている。

委員) 質問だが、御自身の経験から小学校、中学生でも政策を提案したほうがよいということだが、そもそも国際政策学部というのは名前から聞くと、国際的な政策を勉強するのかと思っていたが、まず皆さんはどういう勉強をされているのか。

出席者) カリキュラムの中に必修の授業として例えば国際教養や英語、フランス語、韓国語、あと各国の外交問題とかを学ぶ機会はそろっている。

3年生以降、それぞれが専門的に学ぶ分野を決めるためにゼミの選択があるので、そのゼミの選択のときにやろうと思えば国際関係の研究をそのまま続けることもできますが、山梨県立大学の特色は幅広い勉強の分野が用意されているところがとても面白いと思っている。あまり名前に引っ張られているカリキュラムではなくて、どちらかという自分のやりたいことをしっかり選んでいける環境があるというのが、この大学を言い表すには正しいのではないかと感じている。

委員) ある民俗学者の論文を読んだときに、地域への愛着心は、若い頃にいかにクリエイティブな体験をするかによって得られるということに非常に納得したことがあった。東京は御承知のようにあまり地域に対するアイデンティティーを持つことは難しいと思うのであえて質問しないが、福井と奈良の方にお伺いしたいのは、2人は今、私が言ったことが合っているか合いないかも含めて、もし何か自分の故郷に愛着心があるとするならば、それは例えばどういうものから得て感じているか。

出席者) 私は奈良の中で愛着心を持っているとすると、奈良の柿の葉寿司という料理になる。

私は小さい頃からよく食べているが、特産物だから食べるように言われて食べたわけではなく、小さい頃からお祝い事などで食べて、これは好きだなと自然と思えるようになった。そういうものに愛着心が抱けると思う。

奈良には、鹿とか大仏とか有名だが、愛着があるかと言われたらそうでもない。小学校の社会見学で、これは奈良の特産物、有名なものですと教えられてもそうかで終わってしまうので、大仏とか日本全国的に有名なものとかよりも、やはりお寿司だったら舌とか、あとは歌とか踊りであれば耳とか、幼い頃からの感覚を通じて直感的に好きだなと感じられるもののほうが愛着心は湧きやすいのではないかと思った。

出席者) 地域のイベントが愛着につながっていると思っている。地元では、春に地域のお祭りがあり、自然を重要視したお祭りで、田んぼでバレーや田植え競争、餅撒

きをした思い出が今でも残っている。そういうイベントが自分の愛着につながっていると思う。

委員) 皆さんが県立大学で、こういったことをやりたいということがあれば具体的に伺いたい。

出席者) 小中学校との連携など、地域と一体で何かをしていくことをやっていきたいと思っている。

出席者) 先ほどから、皆さん地域、地域と言っているが、地域のコミュニティーだけでつき合っても何も生産性がないので、外とのつながりを求めていかなくは駄目だと思う。国際交流という言葉が一番安易に出てくるが、いろいろな人や人材、山梨県内だけではなく外からも人を呼んで交流ができればいいと思う。

出席者) 意見が出た県外とかコミュニティーのことで話をしたい。

山梨は無尽があるように、もともとの県民性が、昔からのつながりの中で領域をつくってしまう。それが、県外から来る人に対して違和感を与えてしまうのではないかと思う。また、どうしても、親が県外から来ている子供もうまくつながりをつくれていないと思っている。県内の人たちは、自分たちが知っているところだけでコミュニティーをつくるという、根づいてきた価値観があると思うので、そこを変えることが必要だと思う。県外の人達もうまく自分たちの輪の中に取り込んでいけるような環境を上手につくれると、新しく外から来た人の定着という新しい要素を取り入れていけると思う。

委員) 今の意見に対して質問ですが、どうすれば山梨県の人たちは変わると思えますか。先ほど国際交流をすればいいという意見があったが、それも一つかもしれない。どうしたら思う方向へ持って行けるのか、その手段を教えてください。

出席者) 例えば、範囲が限定されるかもしれないが、自分が今住んでいる町には、今すごい勢いで新築が建っており、そこには県外から来る人が多いと聞いている。

どうしても新しく来た人たちは、例えば東京であれば、東京都民性から近くの人とのつながりをつくらない方が多いと思うので、もともと地元に住んでいる人たちが、回覧板などで、新しく来た人たちと一緒に交流するイベント等の機会をつくり、発信する。発信することで、もしかすると興味を引く人がいるかもしれない。それをやらないと、組の中で、「最近、あっちに新しい人が来たみたい」や「そうなんだ」で終わってしまうと思う。そうではなく、新しく来た人たちの歓迎も含めて一緒に交流できるようなイベントがあると、新しく来た人たちも、山梨ではこういったイベントでつながりをつくることができるんだといった発見ができるので、一緒に引込んであげるイベントなどの企画があると、よりよい効果

があると思う。

出席者) 私もつながりというものはすごく大事だと思っている。地元の富士吉田市内で行われているハタオリマチフェスティバルに行ったが、そこでは地域の人々がお祭りの屋台を出すのではなく、市外の方や移住者の方が出展していた。私は、そういうことにすごく興味を感じた。今までのまちづくりというと地域の人々だけが観光客とか移住者を迎え入れるためのまちづくりだったが、これからのつながりという面では移住者とか観光客と一緒につくるまちづくりというのが重要だと思っている。

委員) 私は県外出身ですので、県外から来た方の意見はよく分かる。私はふるさとに対して考え方も含めて愛着を持っており、誇りを持っている。山梨県に来て、数十年住んでおり、今は山梨県民だと思っている。

自分のアイデンティティーを確認しつつ、新しいところに行って、そこでまた新しくアイデンティティーを確立する、県内にいても、県外に出ても、別にどちらがいいとか悪いとかではないいつも思っている。

山梨県に残ってほしいが、残らないことが悪いことではなく、それは人それぞれの生き方であって、私は皆さんが自分の選んだ道で、自信を持って、山梨でも、県外でも、自分でやりたいことを一生懸命頑張ってもらえば、それが日本全体、世界全体に貢献していくものだと思う。

今話聞くと、気持ちの問題についての意見がたくさん出てきたが、そうは言ってもお金のことはあると思う。それから働く場所について、会社名ではなく、皆さんがやりたい職種や業種がある会社がないから選べないのか、また、労働条件や気持ちのこともあると思うので、どういうものがあればいいのか教えてほしい。

出席者) 就職活動が終り、京都に本社がある会社に就職することになった。最初は、広告やテレビ関係の仕事がしたいと思い、何とか山梨県内でそれができないか探したが、見つからなかった。

山梨の放送局でもアナウンサーや広告関係の募集をしていたが、募集枠が1名や2名であるため落ちてしまった。もっと募集が多かったら、山梨県内で働く機会がまだ残っていたのではないかと思っている。

既にある企業がもう少し募集の枠を広げてほしいと思う。特に広告に関しては本当に県内には少ないと思う。山梨は土地がたくさんあり、未整備の土地もまだある印象なので、例えば、東京の大手企業に、少し田舎ですがリラックスして働ける本社をつくりませんかといった呼びかけをして、山梨県内に県外の企業が来ることになれば、もう少し選択の幅が広がると思った。

出席者) 私も山梨県で働きたいと思っているが、山梨県の企業に自分がやりたいことはないと思った。県内の企業を調べて、この会社に入ってやってみたいと思えるよ

うなところがないと思った。ただ、私は甲府市内の企業に長期インターンシップに行き、その中に実際入ってみると意外と自分が思っていたより、何かできることがあるのではないかと思った。

インターンシップ期間中に、いろいろな会社の方と話しをする機会を得て、山梨県内の大学生は、何となく企業を選んでいたり、何となく山梨はないと切り捨ててしまうのがもったいないなと思った。

大学生が時間のあるうちにインターンシップを通じて県内の企業へ1回行き、どのような企業があるのかを知る機会、知ろうとする機会、調べるのではなく、身をもって飛び込んで行く機会がもっと必要だと思い、自分は今取り組んでいる。

出席者) 就職活動のアプリなどを見ると、福利厚生等で企業に勤めた後に、海外に研修に行けるところがあるが、山梨県の企業を見ているとそういうことをやっているところが少ない印象がある。先ほども言ったが、山梨県内ではいい会社かもしれないが、県内で終わってしまったら安定はするかもしれないけど、上れはしないというところに何も面白みがないと感じている。

国際社会で国際競争力を伸ばしていかなきゃいけない御時世に、山梨県という一県の中で満足していいのかという気持ちがあるので、山梨県内の企業の方にはもう少し頑張って外へ行ってほしいと思っている。

出席者) 私は、まだ就活は全然視野に入っていない状況であり、何も知らない状態で見ている県内企業へのイメージとしては、とにかくやりたいことができそうもないというか、地味というイメージがとともある。隣に東京があるため、そちらのほうがきらびやかに見えてしまうと思っているので、山梨県にもこんなことがあるとか、こんなことができるといった体験をする機会がふえれば、山梨県でもいいかもしれないと思う人がふえるのではないかと思った。

出席者) 山梨県は企業数がほかの県と比べて少ないので、そこで競争するのは勝ち目がないと思っているが、そうであれば、テレワークができる場所をつくるのも一つの手だと思っている。

交通の面では、東京から電車で行ける距離で、車でも可能な距離だと思うので、駅前などいろいろなところにテレワークができる場所をつくる必要があると思っている。そうすることで、山梨県に住むという選択肢もふえて、さらにいろいろな価値観を持った人が集まると思う。

もしテレワークができる場所をつくれるのであれば、さまざまな価値観を持った人がそこでコミュニティーをつくることができ、山梨県内の企業もさらに上を目指せるのではないかと思っている。

委員) 今、山梨県でも例えば教員採用試験の倍率が低く、募集にとっても苦労している。もちろん就職する皆さんの絶対数が少なくなっていることもあるが、このことは、

県の職員、警察、消防にしても、同じような状況となっている。

皆さんの中で公務員を目指そうとか、民間を目指そうとか、将来の目標に対しての思いがあると思うが、そのことについて伺いたい。

出席者) 私は富士吉田市にある会社に就職するが、それは、山梨は自然が魅力で、その中に古道や石仏など歴史がある。そういったものを知ると、昔はここに人がいたんだと感慨深い気持ちになるので、自然に関われたらという思いや、県立大学で山梨について学んでいくうちに恩返しとか、また、学んだことをここで生したいと思うようになってきた。

公務員ではなく、民間を選んだのは、安定していることに対して反発心があったり、何か働いている方の顔が暗いということがある。ただ、話してみるとすごくいろいろなことをされていて本当にすごいと思ったが、何か大変そうという感じを受けた。

出席者) 今公務員になりたいか、なりたくないかと言われたら、正直なりたくないのが本音。私は働く先を選ぶ中で、働いてみて楽しいか楽しくないかをとても重視している。働いていく中で、楽しくないと結局つまらなくて辞めるというのが一番もったいないかと思っている。

私の偏見かもしれないが、自分が住んでいる役場に行って、そこで働いている方と話をしたり、雰囲気を見ると、楽しくなさそうと感じたのが大きな理由。また、両親の話ですが、祖母の介護の手続の関係で一回役場に行ったときに、すごく失礼な言動を職員にされたことがあったり、そのほか、通っていた高校の政治経済の先生があそこの行政の職員はあんな態度で金もらっていると言っていたことも理由にある。

もちろん楽しく働いている方もたくさんいると思うが、私たち住民が市役所に行ったとき、最初に接する方が、どうしてもマニュアルどおりというか、手続だけというのが伝わってくるので、何か楽しくなさそうというところにつながってしまう。私の場合は、やりがいを感じているのか感じていないのかわからないところが、公務員にはなりたくない理由。

出席者) 私は公務員になりたいなと思っている。なぜかというと、私は何かをしたいというのがあまりないが、一番は地域のために何かをしたいと思っている、民間企業も人のためというところがあるが、地域の方々の生活を守りたいというか、支援をしていきたいのであれば公務員になるのがよいと考えている。

市役所など、いろいろなところにインターンをしたが、皆さんが言っていた堅いイメージはあまり感じていない。私も以前のイメージは堅いイメージやパソコンに集中しているイメージだったが、地域の方々とコミュニケーションを取ったり、地域の人々と楽しく話している市役所の方を見て、逆にコミュニケーションを通して地域の人と関わるといのは、とても魅力的だなと思った。もちろん

安定しているところもあるが、漠然と地域のために何かをしたいという思いがある。

出席者) 今、私は一般企業に就職したいと思っている。親からは公務員になれとか言われるが、なる気は一ミリもない。なぜかを考えたとき、公務員があまり好きではないので、なりたくない理由はすぐに浮かんできた。

1つ目としては、公務員になって、上がり目があるのか、公務員になるメリットが自分にはわからない。安定していることは1つあると思うが、さっき言っていた地域住民とのつながり、これは一般企業でもできると思う。公務員ができることは、一般企業でもできると思っている。公務員がまさっているのは結局安定しているだけで、何が楽しくてあんな仕事をしているのかいまいちわからない。

ほかには、正直、一般企業であれば、首を切られるような人も働いていると思っている。とにかく公務員は無駄が多いと思う。私は、東京に住んでいて、たまに区役所に行くことがあるが、そこでは働いているのか働いていないかわからない人がうようよ歩いており、どう考えても時間の無駄だと思うことが多々ある。例えば、奥に人はいるのに何分も待たされる。奥にいる人は何か座っているだけというところを見ると、一般企業であれば、生きていけないと思うことが多々あり、あのような人たちにはなりたくないと思ってしまう。

また、教員については、山梨でできた友人が、ことしから先生をやっている。彼は教えることを目的で先生になったのに、経験がないスポーツの顧問をやらされて時間を取られ、かつテストの採点などあるので長時間勤務になっている。要するに一般企業よりブラック。先生は、そもそも給料もよくなく、本当にやりがい搾取以外の何物でもないと思う。つまり、私が思うに、公務員になるメリットが本当に何もないから就かないと思う。給料がいいとか、福利厚生がとんでもなくいいとか何かメリットがあればなりたいと思うが、それもないので、公務員と教員には魅力がないと感じる。

出席者) 私も公務員には全くなりたくはないと思っている。市役所の受付の方の対応がとてひどく、とてもフラストレーションがたまる対応をされていていいイメージがない。まだ1年生で就職のことは考えておらず、どこに就職したいのかも考えていないが、なぜか公務員にはとてもなりたくない。なぜかわからないが、そういうイメージがある。

また、私のイメージとしては、公務員はシステムにとらわれており、マニュアルどおりにしか動かない、人としての温かみがないというイメージがある。これは完全に憶測になっているが、そういうイメージがある。

先生に関しても、先ほど言っていたとおり、勤務がブラックであったり、何でもこんなことやらせるのかといったことがあると聞いている。また、先生同士のいじめや、過労死の問題など、最近先生について、いいニュースがないため、よいイメージが全く出てこない。それで私はなりたくないと思っている。

出席者) 挑戦できるという面で民間を選ぶ人が多いのではないかと考えている。先生や公務員は、柔軟さが無いと考えているので、先生であれば、分業したり、公務員であれば、挑戦できる柔軟さがあれば、もっとなりたいという人がふえるのではないかと考える。

出席者) 私は以前、市役所の職場の中に入ったことがあるが、そのときに思ったのは何となく雰囲気が全体的に暗いと思った。働いていて楽しさというか、生きている実感があるのかと思ってしまうくらい暗かった。

また、先生はとにかく仕事が多くて大変そう。ほかの方の意見にあったように、最近暗いニュースしかないのでは、先生になった後、生活がよくなるというイメージがない。

委員) 皆さんがいる学校自体が民間就職というか、そういう方向の人材を引きつける大学になっているのかなと思った。どちらの意見もすごく参考になった。

委員) 私は山梨出身だが、県外や海外に住んでいたことがあるので、いろいろな違いはよくわかっている。山梨県が好きなので、好きなものをよくしていければいいと思っている。

さっき、皆さんが話をしてくれた地域への愛着について、子供のころから地域とつながることが重要という意見も含め、いろいろなアングルから教えてもらい、本当に、そうだなと思った。

それも踏まえて、皆さんはこの大学でいろいろなことを学んでいるので、山梨の地域の課題はわかっていると思うが、例えば、会社に就職するのではなく、起業して自分で課題解決しようと思ったことはあるか教えてほしい。

出席者) 起業は全く考えてなかったが、ここ数カ月でやってみてもいいと思っている。

山梨県の企業が東京に勝てるとは全く思っていない。これから先伸びていくためには、この現状のままだったら絶対無理だと思っている。大学生が何を望んでいて、大学でどういうことを学んでいるのかを知るためには、もっと社会人の方と学生をつなげる機会が絶対必要だと思う。先ほど話したインターン以外にまだアイデアは何もないが、インターンという一つの機会を通じて学生と企業をつなげることは、起業と言えるかわからないが、取り組みの一つとして、山梨県の企業がこれから伸びていくためにもやっていいものではないかと考えている。

出席者) 自分は起業したいと思っている。自分が1人で、自分の力でお金を稼ぎたいと思ったとき、お金の問題や法律の問題などわからないということがあった。学校で起業のための勉強ができれば、起業する方法がわかるので、起業したい人がふえると思う。

出席者) 社会人になって何年か働いた経験を経てから思うかもしれないが、今のところ、その知識もなければ能力もないと思っているので起業しようと思っていない。

なぜ起業しようという考えはないのかを考えると、今までの教育は、既存の企業に入るのが当たり前という教育だった。最近、起業する人もいるが、多分その考えは根強くあると思う。起業することに抵抗があったり、一般企業に入って就職することが頭の中に刷り込まれていると思うので、それこそ小学校、中学校、高校など起業のための案を提出させる授業などをふやしていけば、起業を含め職業選択の幅はもっと広がると思った。

委員) 県議会では若者の県政や県議会に対する理解、関心を深めて、政治に参加する意識の向上を図りたいと考えている。若者の政治への関心を高めるための方策について、学生の皆様の意見を伺いたい。

出席者) 最近は消極的な人がふえているイメージがある。例えば大学でも、意見がある人は言ってくださいと言っても誰も手を挙げないことがよくある。そうした消極的な態度であるがために、今ある政策に対して、「あ、そうなんだ」で受け入れて終わってしまい、何か自分で意見を言ったり、行動を起こしたりしないのではないかと思っている。

これを解決するには、小さいころからの習慣が大事なので、小学校、中学校のころから、政治に関しての話題を出して、それに関して、例えばグループをつかって、意見をまとめ、それを話し合ったり、ディベートをするといった授業で経験を積んだり、主体的な態度を育むことが大事だと思っている。

出席者) 2つあると思っている。まず、情報が入ってこないというのが1つ。例えば、テレビはスキャンダルなど政策ではない面ばかりを取り上げているため、政策のほうに目が行かず、また、政策についての情報が入ってこない。

もう1つは、若い人がもう少し出馬し、政治に参加するとよいと思う。若い人が出馬すると、自分たちも、若い人を応援しようといった仲間意識が生まれると思っているので、その2つが重要だと思う。

出席者) 私は、自分の意見が生活に反映されている実感がないことと、若者向けの政策が聞こえてこないためだと考えている。実際には、あるのかもしれないが、普通に生活していると政治の情報がなかなか耳に入らないので、選挙をすると聞いても、「あ、そうなんだ」で終わってしまうのが現状と思っている。

出席者) 今日の意見交換会のような場を開き、そこに出席して、意見交換をすることは、議員の声が聞ける機会なので、一番理想的だと思う。参加をして、情報を知るだけでも政治への参加になると思う。

私の勝手なイメージだが、選挙期間中は、政治家の方々の政策や意見は聞こえてくるのですが、当選後、落選後は、本当に何をしているかわからないイメージがある。たまたまヴァンフォーレ甲府が優勝した後、笠井委員のツイッターを見る機会があった。

どんなことをしているのかを見るだけでも、政治参加になるのではないかと思っているので、もっと選挙期間以外のところで、何をしているかを知ることができればいいと思った。

出席者) 私も2点ある。先ほどの意見と似ているが、1点目は選挙期間になると、議員や候補者が、路上で演説しているところを見る。地方議員は、その地域の代表という立場で議員になっているが、本当にそこに住んでいる人々の意見をいつどこで聞いているのかわからない。選挙のときに出てきて話しているのは知っているが、実際の日常生活で意見を聞くために外に出てきてほしいと思っている。例えば、議員に、自分たちの生活についての意見を伝えているのかと言われたら、多分伝えてないと思うし、そういう場もあまりないと思う。けれども、気づいたら、その議員がこういうのが原因でといった話をしており、それはどこから聞いてきたのかと疑問に思っている。

議員とそこに住んでいる人々が意見や話をする機会がないことが、まず政治への関心の低さの一因だと思っている。

もう1点は、インターネットが発達したことに原因があるかもしれないが、ユーチューブやヤフーなどで、自分が知りたい内容だけを調べていると、だんだん知りたい内容のトピックだけが出てきてしまう。このため、今の若者は、政治に関心がないので、政治についてのトピックが出なくなり、余計に情報が入ってこない状況となっている。若者としては、意見はあるけど言ってない、伝わらないという負の循環ができてしまっていると思っている。

無責任かもしれないが、例えば、私たちが住んでいる地域の候補者が公約を掲げたとしても、若者は調べないので、それを無理矢理にでも若者に発信をする。そうすることで、若者は自分たちの地域の候補者の公約を知り、そのことを考える機会がふえると思う。

伝える場所がないと、候補者が考えていることがわからず「何か始まったんだ、あ、投票期間終わっちゃった」といった人が多くなると思う。

出席者) 若者の政治関心を高めるためということだが、言葉を選ばないで言うと、多分今の若者は政治家や議員に失望している人が多いと思っている。

山梨県議会を見たことがないのでわからないが、国会を見ると、発言者の発言を遮って誰かがしゃべっているといったように、小学生でもわかる駄目なことをやっている。マスコミがそこを切り取っているかもしれないが、それを見ると、自分たちの血税で、あのようなくだらないことをやっているのかと思い、ばかばかしい気持ちになる。

また、日本の人口ピラミッドは上が逆になっているため、年齢が上の方が多い。そのため、必然的に上の人に予算が多く使われることはわかるが、自分たちに何もメリットがないため投票に行くのはどうなのかと思うことがある。

おそらく議員の方々も、若者にメリットがある政策をつくっていると思うが、見えてこない。きょう初めて議員の方々働いているところを生で見たので、ちゃんと働いているんだと再確認することができた。このように会うだけでも、何をしているのかがわかると思う。SNSも大事だと思うが、若者に会って意見を聞けば、若者も議員が働いていることを認識ができ、その意見についてさらに次のアクションを起こしてくれたら、自分たちの意見も採用されたと思う。そして、次から選挙に行こうとなると思う。

最後に1つ。政治家は、ネットリテラシーが少ない人が多い。例えば、IT時代だから、子供たちにパソコンを配って学ばせようという政治家に限って、パソコンが使えない人が多いといったように、自分の背中でものを見せられていないので、何を言われてもぼかんとってしまう印象がある。誰かに何かをやらせたのであれば、まず自分がそれをできるようになってからすれば、自分たちが選んだ人は、ちゃんとできるから、自分たちもやればいいのかという気持ちになると思った。

そういったことで、若者が政治に関心を持つと思う。

出席者) このテーマで一番気になることは、若者の投票率の低さだと思う。

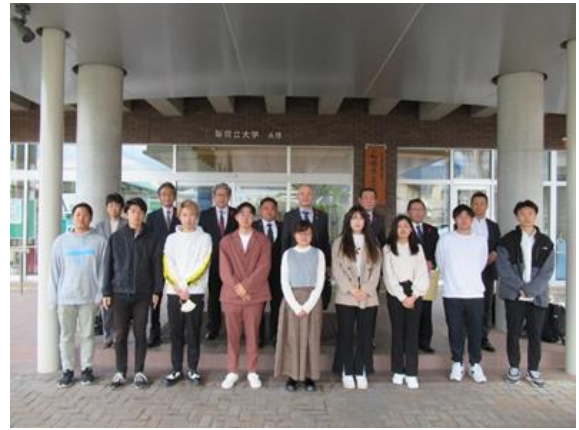
なぜ投票率が低いかというと、紙切れ1枚で、どうしても自分が政策を変えているように感じられないという手応えのなさが、一番の問題点だと思っている。それなので、まずは誰もが政策を変えられる可能性があるという自覚させるために、例えば、高校生に向けて、駅前のお店について、こういうことが政策なんです、こういうことがまちづくりなんですということを自覚させながら、要望のアンケートを実施する。そうすると、実際に自分の意見で街中のここを変えることができたという手応えを感じてもらえる。そういうきっかけを提供することができれば、自分にも何かができるという気持ちにつながるのではないかと思った。

委員) 若いときに思っていることをやっていく中で、思うようにいかないことが出てくると思う。それでも、例えば地域のために活動したい、自分の能力を引き出したいなど、そういった興味が根っこにあれば、どんなことがあってもきつといい形になり、それが地域のためにもなると思う。

山梨に残って活動してほしいというのは、本当に山梨で活動している人間のわがままみたいなもので、皆さんは自由にどこに行っても活動してもらってもいいと思う。ぜひ、皆さんが今思っていることを心の真ん中に置いて、これからやってほしいと切に願っている。

それと、政治家の情報リテラシーの部分は徐々によくなっていくと思うが、それには皆さんのような若い人たちが関わっていかないと変わっていかない部分だ

ろうと思っている。



意見交換会の様子